

令和4年度第5回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和5年3月16日（木）10：00～11：32

場 所 事務局第一会議室及びZoom 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、黒川理事、柳澤理事、松田理事、市川理事、
佐々木委員、砂川委員、利根委員、萩原委員、山名委員
[Zoom] 中村理事、小安委員、平本委員

欠席者 真下委員

陪席者 [会議室] 山中監事、齋藤監事、川又副学長
[Zoom] 田代副学長、木崎副学長、伊藤副学長、
井口人文社会科学研究科長、野中教養学部長、井原経済学部長、堀田教育学部長、
石井理工学研究科長、重原工学部長

- 坂井学長から、真下委員が本会議を欠席する旨報告があった。
- 令和4年度第4回議事要録の確認について（資料1）
令和4年度第4回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 令和5年度学内予算について

松田理事から、資料2に基づき、令和5年度学内予算について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 文部科学省から、令和5年度中に電気料金の高騰に係る追加予算が配分された場合、学内に再配分する前提での予算編成ということか。

△ 教育経費及び研究経費を削減することはできないので、学長裁量経費等の事業戦略的な経費について、一定割合を留保することとしている。したがって、追加予算が配分された場合には、留保した予算に対しての再配分を行うことを考えている。

☆ 追加予算が配分される等の理由により、余剰が生じた場合、単に削減された予算に配分するのではなく、戦略的な配分を行う必要があると思う。また、こちらは確認だが、授業料免除をした分の予算については、別途補填されるということによろしいか。

△ 授業料免除分については、別途予算措置を受けている。

△ 予算の余剰分を戦略的に活用することを踏まえつつ、秋には補正予算という形で組み直すことも考えているので、その際には、改めて意見を伺いたい。

2 令和5事業年度長期借入金償還計画について

松田理事から、資料3に基づき、令和5事業年度長期借入金償還計画について説明があり、審議の結果、承認された。

3 令和5年度計画について

川又副学長から、資料4に基づき、令和5年度計画について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 年度計画1-1-2にある「知事と学生の意見交換会」について、令和3年度には、各市町村の消防団への入団希望者が少ないという課題に対し、学生からのスマートフォンやパソコンから応募できるようにするという提案を受け、令和5年1月に実現した。また、令和4年度にも、サービス産業事業者の労働生産性向上のため、DX導入に当たっての事例を埼玉県ホームページに掲載するという提案を受け、現在対応中である。以上のように、具体化できると判断した提案については、事業化に向けて取り組んでいるところである。

△ 本学では、令和5年度から、意見交換会において継続的な提案ができる体制となるよう検討を進めているところであり、引き続き協力をお願いしたい。

☆ 年度計画3-1-1にある「数理データサイエンス教育の体制」について、既に教員は採用しているのか。

△ 4月に採用することが決定しており、この教員を中心に、学部横断的な教育を実施していく予定である。

☆ 年度計画の作成が必須ではなくなったことにより、今までと比較して、数値目標を厳密に設定していないように思うが、このことについてどう考えているか。

△ 第3期中期目標期間においては、各年度計画を達成したものの、最終的に目標を達成できなかった部分があった。このことを踏まえ、年度計画に対する評価を厳正に行いたいと考えている。

△ 年度計画の作成に当たっては、従来は中期目標を策定している理事・副学長を中心としていたが、第4期からは、各学部・研究科が携わるようにしたことにより、当事者意識を強く持てるよう工夫している。

☆ 年度計画1-1-2にある「政策提言」については、提言をするのみならず、プロセスも重要であるので、実際に政策を担当する行政職員と数ヶ月に亘って連携を取り、一緒に政策を作っていくところまで踏み込んでいくと、本学・埼玉県双方にとって有益であると考えている。

△ 現在も行政職員と連携を取りながら進めているところなので、今後も継続していきたい。

○ 報告事項

1 外部評価報告書について

学長から、資料5に基づき、本学の自己点検評価結果の妥当性を検証するため、第3期中期目標期間に係る外部評価を受け、その報告書の概要について説明があった。

2 統合報告書について

松田理事から、資料6に基づき、ステークホルダーに対し、教育研究活動や社会連携状況等の理解を深めていただくため作成した、統合報告書について説明があった。

☆ ステークホルダーに対しての報告書ということだが、具体的にはどのような属性の方をターゲットとしているのか。それによって、報告書の中でどの部分を強調するのかといったことが変わってくると考える。

△ ステークホルダー全体を意識した結果、大学概要との差別化が十分に図れていないところがあるので、次年度以降は、本学が力を入れているところ、力を入れたいところを示せるようにしたい。

☆ 報告書としては、本学の一番の強みが何かということをもまずは打ち出した上で、その他のことを紐づける形とした方が良いと思う。

△ 他大学では、若手職員がチームを作って、自大学の魅力を伝えるという手法を取っている例もある。いただいた意見と併せて、このような手法も参考にして、次年度以降に活かしていきたい。

3 キャンパスマスタープラン等による施設整備や長寿命化の進捗状況について

松田理事から、資料7に基づき、キャンパスマスタープラン等により計画され、令和4年度中に整備を実施した事業及び見送った事業について報告があった。

○ その他

1 令和4年度における埼玉大学の主な活動について

学長から、資料8に基づき、令和4年度における埼玉大学の主な活動について説明があった。

2 令和5年度の開催日程について

三浦総務課長から、資料9に基づき、令和5年度の経営協議会開催日程について説明があり、次回以降は、Web会議の形式をZoomからMicrosoft Teamsに変更予定である旨連絡があった。

3 次回日程（令和5年6月29日（木））

学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上